
論 文

鳥取県における森林，林業に関する意識調査 (II)

——人工林および天然林について——

小笠原 隆 三*

清 水 孝 洋*

高 瀬 光 朗*

**A Study of Public Opinions Regarding Forests
and Forestry in Tottori Prefecture (II)**

——Planted Forests and Natural Forests——

Ryuzo OGASAWARA*

Takahiro SIMIZU*

Mituro TAKASE*

Summary

The public opinions concerning forest resources in Tottori Prefecture are investigated.

The results showed that many people have a strong interest in forests and that, over the past year, numerous people have gone to the mountains and forests to enjoy this natural, beautiful environment. Purposes for going to the mountains or forests were found to include picking edible wild plants, enjoying the beautiful scenery and views or just relaxing or taking a drive in nature. Many were fond of walking in the woods and stated that they get an impression of dignity from the tall and great old trees, with often very mysterious emotions for the wide and deep forests. Almost all thought that the trees and forests provide a very favorable environment for comfortable living. They all hope that there will be more products made of wood. The number of people expecting more general benefit to the public as a whole from forests was larger than those seeing only narrow economic benefits. Those who liked nature for itself were sizably more numerous than those who favored nature to provide work for the people. Many

* 鳥取大学農学部 森林生産学講座

Department of Forestry Science, Faculty of Agriculture, Tottori University

people hoped for more harmony between nature and man.

I 緒 言

近年、森林資源の有効利用がよくなるよう求められているが、中でも森林のもつ公益的機能への期待が益々よまってきた。鳥取県においてもそうした傾向はみとめられる²⁾。

森林のもつ公益的機能の評価が高まってきたことは大変喜ばしいことであるが、一方で、森林のもつ木材生産機能や人工林に対する理解が不十分であったり、一部に誤解しているのではないかとと思われることすらある。

本来、天然林においても、人工林においても、木材生産のような経済的機能や水源かん養機能などのような公益的機能を、その地域の自然的社会的特性を十分配慮して、総合的かつ高度に利用していくことを考えていくべきものである。

本報では、鳥取県において、天然林および人工林をより有効に利用していくための指針を得ることを目的として、意向調査を行ったものである。

II 調査地および調査方法

本調査は、前報²⁾と同時に行ったものである。

従って、調査地は鳥取県の都市部として鳥取市、米子市、倉吉市を、山村部として若桜町、智頭町、三朝町、関金町、日野町、日南町を対象とした。

600人を無作為に選定し、郵送によるアンケート調査と一部聞きとり調査を行った。

回答のえられたのは383人(63.8%)であった。この回答を分析した集計結果の合計が100%にならないもののみられるのは、小数点以下2桁で四捨五入したことによるものである。

III 結果および考察

鳥取県の森林面積は2614ha(県面積の74.8%)である。この森林面積を多いと思うかそれとも少ないと思うかについて聞いた結果は図1のようである。

「現状のままがよい」が57.8%と最と多く、次いで「増やした方がよい」が27.8%であり、「減らした方がよい」がわずか4.5%であった。

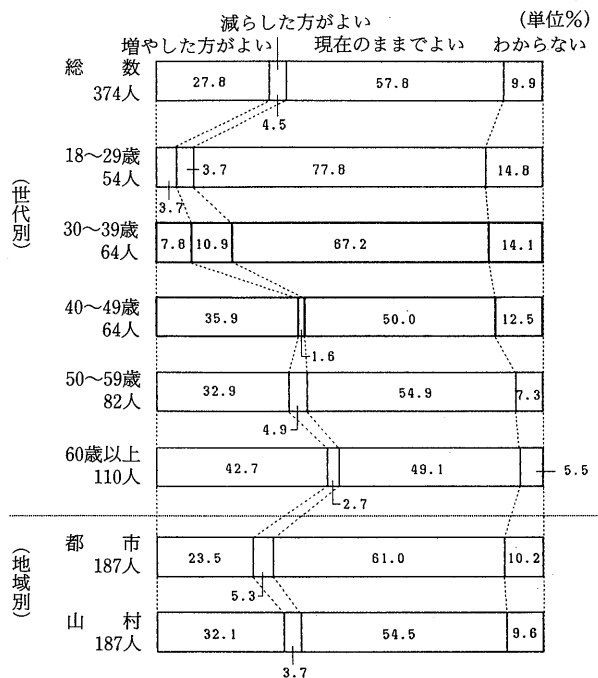
森林面積について、減らして他に転用することを望んでいる人は少なく、大部分の人が現状又は増やした方がよいと思っている。

年代別でみると、年代が高くなるにつれ増やした方がよいとする人が多くなり、若い年代ほど、現状のままがよいという回答が多くなる傾向がみられる。

地域別でみると、山村の方が都市にくらべて増やした方がよいが多く、現状のままでよいが少なくなる。

森林面積を「増やした方がよい」とする人が若い人より年齢の高い人に、都市の人より山村の人の方が多くこれは、森林に対する関心度の場合の「非常に関心がある」の傾向と同じであり、両者が関連していることが考えられる。

図1 鳥取県における森林面積(74%)についてどの様に思いますか。



次に、天然の森林と人為的につくった森林（人工林）との違いを知っているかどうかをきいた結果は図2のようである。

全体でみると、「知っている」が77.3%で、「知らない」の22.7%を大きく上回っている。

これを総理府の調査¹⁾ でみると、「知っている」が60.5%、「知らない」が39.5%であり、鳥取県の方が人工林と天然林の違いを知っている人が多いことになる。これは鳥取県が林業県であることと関連があろう。

年代別では、年代の高い人の方が、地域別では都市より山村の方が天然林と人工林の違いを知っている人が多い。

鳥取県の場合、人工林が約6割、天然林が約4割である。

この天然林と人工林の割合についてどう思うかについてきいた結果は図3のようである。

全体でみると、「現状のままでよい」が37.4%「人工林をもっと増やすべき」が25.1%「天然林をもっと増やすべき」が24.1%である。

年代別では、年代が高くなるにつれ、「人工林を増やすべき」が増加していく。

全体で「人工林をもっと増やすべき」とする人が25.1%であるが、これは総理府の調査¹⁾ の20.0%に比べて少し高い値を示している。

次に、これら天然林および人工林に期待するものは何かについて調べた結果は図4、図5のようである。

天然林の場合についてみると、全体では「公益的効用」とした人は65.7%あり、「木材生産」すなわち経済的効用とした人の17.7%をはるかに上回っている。

図2 あなたは、天然林と人工林の違いを知っていますか。

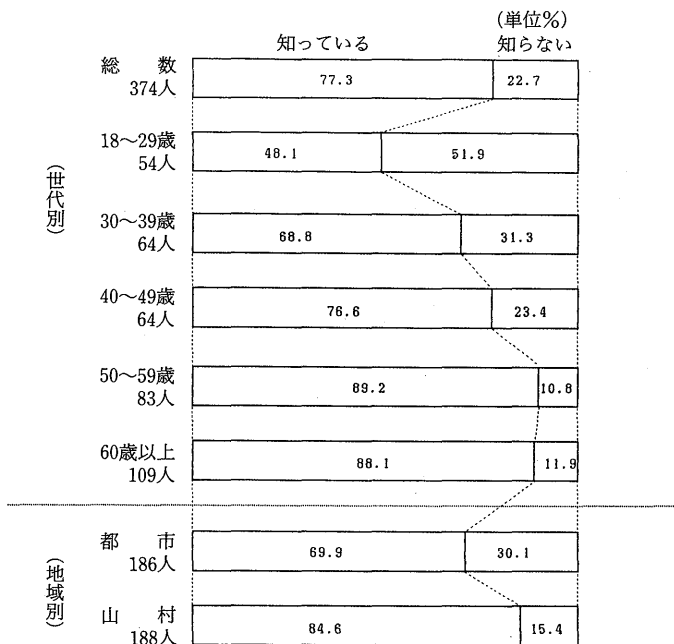


図3 あなたは、現在の天然林と人工林の割合についてどの様と思われますか。

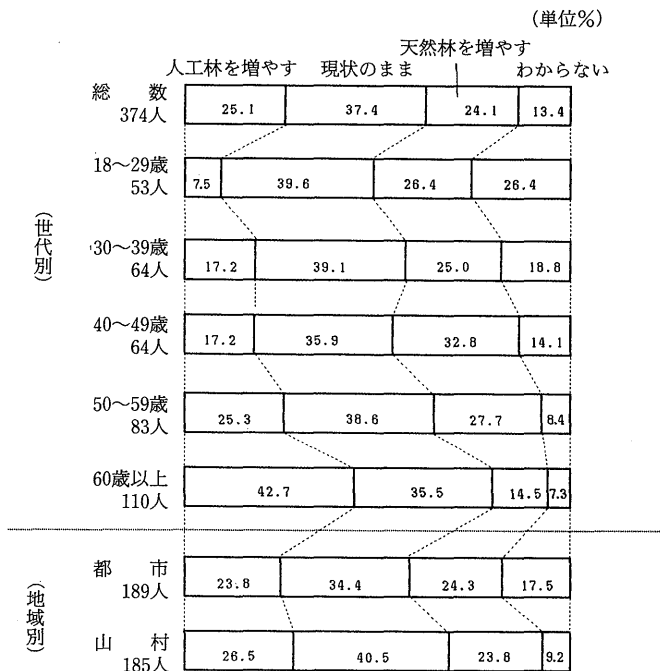


図4 あなたが現在ある天然林に最も期待するものは何ですか。
(単位%)

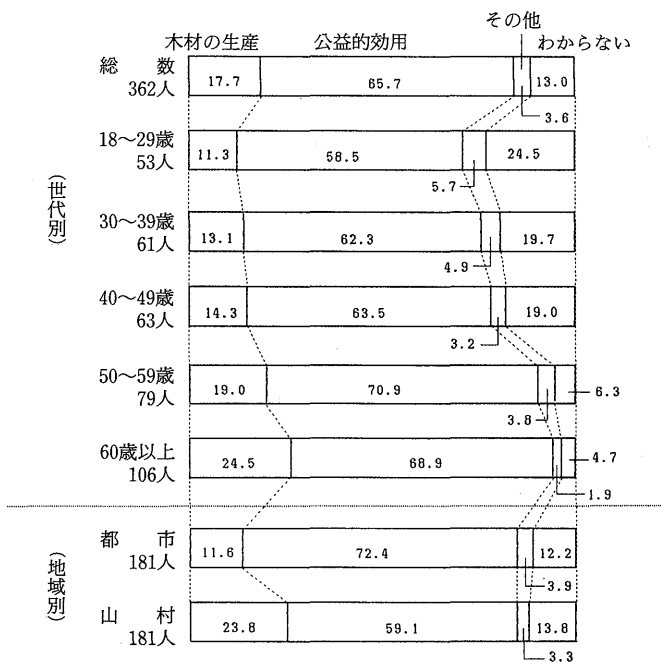
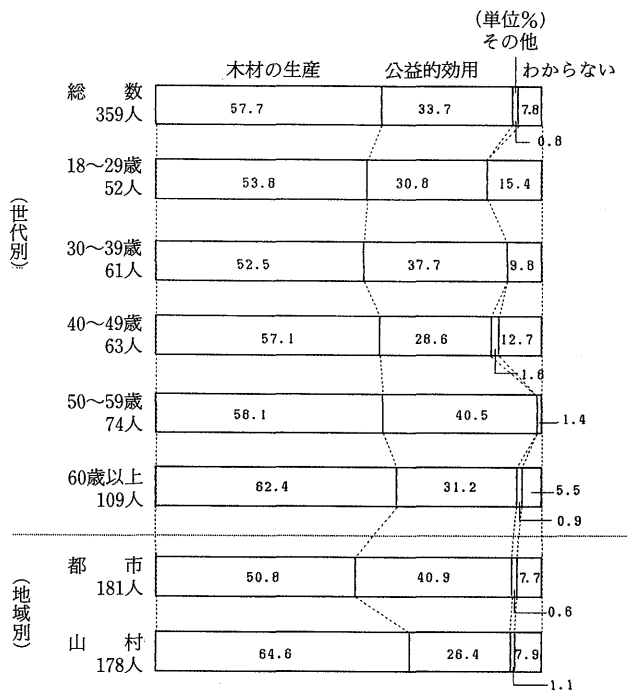


図5 あなたが現在ある人工林に最も期待するものは何ですか。



これを年代別でみると、年代が高まるにつれ、「木材生産」、「公益的効用」ともわずかながら増加する傾向がある。相反するともみられるこの両者が増えた原因は、「わからない」が減少し、これがこの両者に分かれたためとみられる。

「木材生産」の「公益的効用」に対する比率をみると、若い年代で低いが、年代が高まるにつれ次第に高まっていく傾向がみられる。

このことから、年代が高い方が、「木材生産」に期待する割合が高くなるとみることができよう。

地域別では、ともに「公益的効用」が「木材生産」を大きく上回っている。しかし、山村の方が、「木材生産」に対する期待がわずかであるが高い。

次に、人工林に対する期待をみると、全体では「木材生産」とする人が57.7%で、「公益的効用」の33.7%の2倍近い高い値を示している。

人工林の場合は、天然林の場合と異なり、「木材生産」に期待している人が多い。これは木材生産を主目的として造成された人工林であれば当然のことでもあろう。しかし、この人工林に対しても「公益的効用」を期待する人が1/3程あることは注目にあたいする。

年代別では、年代が高くなるにつれ「木材生産」に期待する人がわずかながら増加の傾向がみられる。

地域別では、都市は山村より「公益的効用」の割合が高く、「公益的効用」に対する比率をみてもかなり高くなっている。このことは、都市では人工林に対して「木材生産」を期待するとともに、「公益的効用」にも大きな期待をしていることを示している。

次に、人工林を維持していくためには、本来多くの人手を必要とするものであるが、この点についてどう思っているかをたずねた結果は図6のようである。

全体では、「人手をかける必要がある」が77.6%で、「その必要はない」の7.3%を大きく上回っている。人工林についてはもっと人手をかける必要があることを理解している人の多いことを示している。

年代別では、年代が高くなるにつれて「人手をかける必要がある」が増加していく。

地域別では、山村の方が、「人手をかける必要がある」がやや多い。

現在、森林の造成や手入れが、資金不足、労働力不足等で実行がむづかしくなっている。

こうしたことについて、森林所有者の責任において解決すべきかどうかについてたずねた結果は図7のようである。

全体でみると、「森林所有者の責任」で行うとするのはわずか10.6%にすぎない。

年代別では、年代が高くなるにつれわずかながら「森林所有者の責任」で行うが増えていく傾向がみられる。

地域別では、山村の方が、「森林所有者の責任」で行うとする人が多い。

林業に対する理解が大きくなっていく高い年代や身近なところで林業の行われている山村の方で、森林所有者が自らの手で行うべきと考えている人が、わずかな割合であるが多いことを示している。

森林の造成や手入れについては、老若や都市、山村をとわず、森林所有者のみの責任で行うべきと考えている人が非常に少ないことは注目にあたいする。

図6 あなたは、人工林を維持し守るために、もっと人手をかける必要があると思いますか。

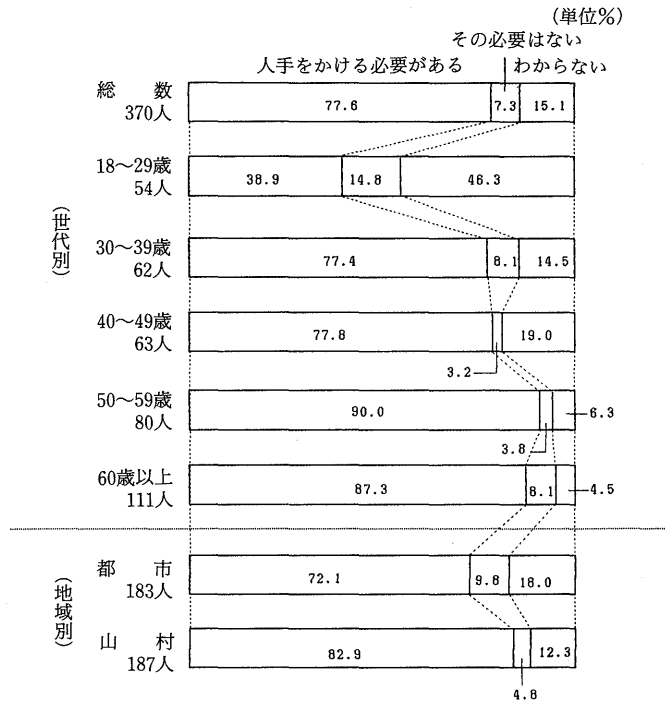
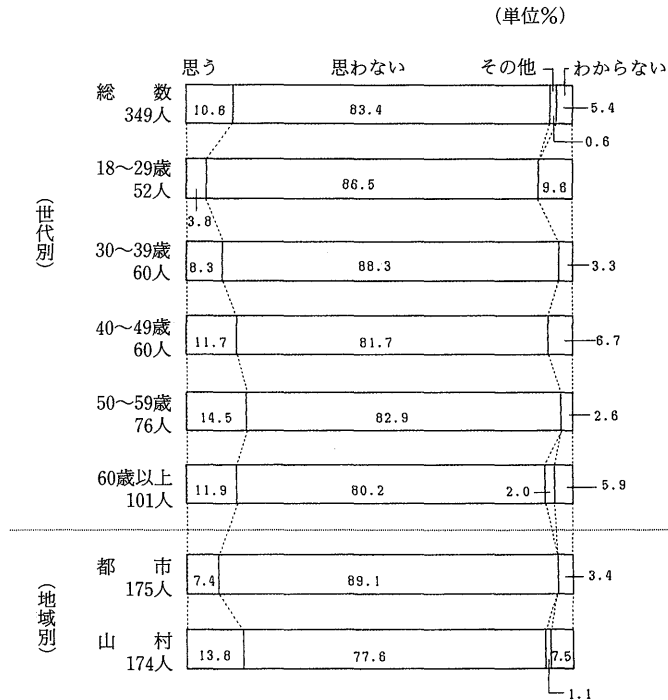


図7 あなたは、森林の造成や手入れなどは森林所有者のみの責任で行なうべきだと思いますか。



IV 要 旨

- (1) 鳥取県の森林面積については「現状のままがよい」とする人 (57.8%) が多かった。
- (2) 天然林, 人工林の違いについて多くの人 (77.3%) が知っていた。
- (3) 天然林, 人工林の割合については「現状のまま」(37.4%), 「人工林を増やす」(25.1%), 「天然林を増やす」(24.1%) であった。
- (4) 天然林に期待するものとしては, 「公益的効用」とする人 (65.7%) がはるかに多かった。
- (5) 人工林に期待するものとしては, 「木材の生産」とする人 (57.7%) がかなり多かった。
- (6) 人工林の手入れについては多くの人 (77.6%) がその必要を認めていた。
- (7) 森林の造成や手入れについて, 森林所有者のみの責任で行うべきとする人 (10.6%) は非常に少なかった。

文 献

- 1) 総理府広報室編：みどりと木
月刊世論調査 3 p. 2~30 (1987)
- 2) 小笠原隆三・高瀬光朗・清水孝洋：鳥取県における森林・林業に関する意識調査—森林資源について— 鳥大演研報 19 p. 123~134 (1990)